

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4471100364
法人名	社会福祉法人 宇水会
事業所名	グループホームメルヘン
訪問調査日	平成20年10月21日
評価確定日	平成20年12月11日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4471100364
法人名	社会福祉法人 宇水会
事業所名	グループホーム メルヘン
所在地	宇佐市大字蠅木1769番地の1 (電話)0978-38-1200

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成20年12月11日

【情報提供票より】 (平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤8人	非常勤2人 常勤換算 8.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日あたり 1,200円			

(4) 利用者の概要(平成 20年 10月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	81歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クリニックオアシス
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 地域住民の事業所への理解が得られており、お互いの行事への参加や緊急時の協力体制も出来ている。
- 2 方針としてターミナルは行わないが、体調不良、重度化等で、事業所での生活が出来ない状況になった場合、状況に応じた受け入れ先の紹介や援助を行っている。
- 3 入居者家族と職員間のコミュニケーションが取れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で課題とされた重度化や終末期の取り組みは、事業所としては、終末期ケアの取り組みはしないと位置づけた上で、体調不良、機能低下など重度化の場合、状況に応じた受け入れ先の紹介や援助を行うことを書面で家族に説明し、承諾書をもっている。非常時の備蓄についての指摘は、敷地内の倉庫に水、缶詰、レトルト食品、ガスボンベ、コンロの準備が出来ている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の定期的話し合いの議題として取り上げられており、環境の整備など、具体的対策について話し合われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>各種行事について、メルヘン便りへの掲載呼びかけ、外部評価の結果報告、ねらい、改善点について討議している。区長からは、住民の安心感があると協力の申し出があった。また、家族、市からも重度化に向けた取り組みについて、積極的な意見が出されている。地域へは、緊急災害時の協力依頼、消防訓練への参加、緊急連絡網への参加などを呼びかけている。家族からの入居時の要望には、職員間で話し合い具体策が出ている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族から、面会時や運営推進会議などで、直接、意見や苦情、不安について意見が出ており、解決を図るために、職員間で行うカンファレンスの議題として話し合い、対応、運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の毎月の清掃デーには、職員も参加し、認知症理解への働きかけをしている。地域住民も、旅行に行ったから土産を持参するなど、近所の住人という意識で接している。また、入居者が、1人で外に出掛けていると、地区の住民から、電話や直接知らせが入るなど、地域での見守り体制が取れている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設時に作成された理念を基に、地域密着の言葉を付け加え、地域に溶け込んだ事業所として運営されている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、事業所の理念を自分なりに平易な表現で理解し、管理者と共に、日常の入居者のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所開設前は、運営者理事長が地域の掛かりつけ医として同地で長く開業し、現在も隣接地に居住しており、地域との交流がその延長として保たれている。老人会の加入はされていないが、地区の老人会行事への招待、事業所で行われる夏祭り等の行事への地域からの積極的な参加がされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価で指摘された内容について、検討し、書類の作成、家族との契約、対策など具体策がとられている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、2ヶ月に1度開催している。運営推進会議の開催の際は、全入居者家族への参加を募っており、遠隔地を含め多くの家族の参加がある。事業所からの報告の他、地区の区長、市役所の職員、民生委員児童委員も参加し、それぞれの立場で意見をもらい、運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県の福祉モデル事業としての、地域マップ作り、徘徊ネットワーク作り、介護家族の相談窓口や連絡先の作成に協力している。系列法人の事業所が、地域包括センター事業を行っている為、情報交換を容易に行うことができる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、日常の報告をしている。突発の出来事の際には、その都度、家族に電話連絡をしている。経費の掛かる事は、事前に連絡をしている。職員の顔写真、名前入りのボードの掲示で職員紹介がされている。行事紹介は写真掲載の多い「メルヘンだより」で行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は、系列の法人の家族会と合同で、年に1回開かれている。家族会や運営推進会議で寄せられた意見については、職員間で具体策を話し合い、解決を図る努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの職員によるケアを念頭において、新しい職員採用の際は、日常の人員配置数を増やし、入居者の把握等含め、馴染みの職員と共にケアを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員自らの希望での参加や、業務経験年数に応じて事業所からの指示で受講している。研修受講は、出勤扱いとなり、遠方の場合は交通費の支給、受講料負担もある。系列法人での資質向上の為に内部研修会も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉法人グループホーム協会に参加している。大分県北部ブロックの5カ所のグループホームで、今年度2回、職員を対象に2日間の施設間交換研修の取り組みがあり、他の事業所を体験する事によって、気づきや学びが得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人、家族の事業所の見学を基本としている。自宅からの入居の場合、職員が自宅訪問し、入居者の日常生活を知る事に努めている。入居後の帰宅願望には、家族に面会を依頼し、近所の散歩や買い物での気分転換を図るなどして、徐々に馴染めるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昼食調理の際、台所で一部の入居者が職員と共に調理(団子汁の団子作り、野菜切り)を負担している。入居者は、料理法を職員に楽しく教えたり、職員も入居者の調理技術の得意分野を受け入れ、日常に活かすよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物は、職員が同行し、毎回2～3名で入居前からの行きつけの店舗に出かけている。自宅の訪問や菩提寺に出かけることもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族は介護計画の説明を受け、職員と話し合いもされている。家族の希望の体力維持など具体的な計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月に1度行われ、状況の変化や問題の発生時は、その都度、職員の話し合いが行われ計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空床型のショートステイの受け入れができる体制である。入居者の定期受診は職員が付き添い行われている。受診時間が掛かる場合、家族に受診の付き添いを依頼することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院に時間が掛かる等、希望によりかかりつけ医を事業所の協力医に変えることもあるが、基本的に入居前のかかりつけ医は変えることなく受診を継続している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の時点で、状況の変化や重度化の際の説明が行われている。事業所の方針で終末期ケアは行わないが、体調不良、機能低下など重度化の場合、状況に応じた受け入れ先の紹介や援助を行うことを、書面で家族に説明し、承諾書をもっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事介助は、出来るだけ自分で食べるよう援助し、排泄の介助も、様子を見てトイレ誘導し、交換のパット等をトイレ内に準備、スタッフは外で様子を確認しながら待機、タイミングを見計らって中に入り援助するなど、入居者の誇りを損ねることのないよう気配りをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で、食事がすすまない時には、食事の場所を食卓から台所に移動して不快な思いをすることなく食事を取れる様にしている。また、外出希望などのある入居者は、希望に添う外出先に、職員と共に出かけたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一方的な食事の援助や介助をすることなく、円形の2つのテーブルに分かれて、それぞれのテーブルで、入居者、職員が同じ食事を共に食べている。食事中は、会話も弾み、入居者、職員の笑い声が響き、楽しそうな食事の時間を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は決まっているが、希望にそって、臨機応変に対応をしている。入浴拒否傾向の入居者には、無理矢理入浴させることなく、他の入居者の入浴の様子を確認させ、不安、不快感を取り除いて入浴を促したり、入居者同士で一緒に入浴を促すなどの入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	若い頃の趣味等を生かし、自由な雰囲気を入居者をリビングで過ごさせている。(家族アンケートより)。入居時に、好きなことや興味のある事の支援に役立つ、生活歴、家族歴の情報を細かく収集して活かしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩、買い物などの外出が行われており、入居者全員で、花見やブドウ狩りに出かけている。外出を好まない入居者にも、参加する意欲を持たせるような声掛けの工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵を掛けることなく、センサーや鈴を利用することで安全面の配慮をしている。管理者は、鈴を戸につけることについて、入居者の拘束に該当しないかなど、問題意識を持ったケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、消防署、近隣住民、入居者交えての避難訓練を行っている。今年度は、今月末に予定している。緊急連絡網には、事業所関係者だけでなく、地域の住民4人が入っており、緊急時には地域の協力を得ることが出来る。昨年の取り組み課題の食糧の備蓄は、缶詰、レトルト食品、ガスボンベ、コンロの準備が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、1週間毎に立て、系列の老人福祉施設の管理栄養士に、栄養面やメニュー選定の助言を受けている。水分量の把握には、1日の水分の摂取の記録をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、外光と照明で明るくされており、暖かい雰囲気が作られている。臭気に配慮し、換気やオゾン機の利用で対応している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真や入居者の思いのある物が置かれている。家族にも馴染みの物の持ち込みの依頼をしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものにできるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム メルヘン
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県宇佐市大字蟻木1769番地の1
記入者名 (管理者)	松本和子
記入日	平成 20 年 9 月 26 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より個人の尊重と地域の方との関わりを大切にしていくことを目標とし、理念に添ってご利用者やご家族が安心して生活を送れる施設作りを目指している。	
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティング時に理念を復唱することで把握できている。又、カンファレンスに職員全員が参加し、ケアプランに盛り込み、日々の介護の中に活かしている。	
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念を目にしやすい玄関に掲示し、面会時やホーム見学の場面でわかりやすく説明している。又、運営推進会議を通して理解していただけるように勤めている。	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物などに出かけ、移動販売車が施設玄関に来るようにしているため、近隣の方が集まり、挨拶や会話をしている。又、近隣の方から家で採れた野菜や旅行に行ったのでお土産などの差し入れがある。	
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の敬老会や小学校の運動会など地域行事に参加している。又、施設行事に近隣住民や地区子供会などに参加して頂き地域との交流がある。	○ 地区老人クラブが毎月実施している清掃デーと一緒に参加し、交流を深めている。今後も地域活動への参加を継続して取り組んでいきたいと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>区長より「福祉の里 蝸木」と言われるようにしていきたいとの力強い言葉もあり、地域住民に認知症に対する理解を深めて頂けるように勉強会の輪を広げていけるよう取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項に沿って、ご理解・納得して頂けるよう説明している。又、ご利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、本人・家族等と対応・方針を相談し検討していくようにしている。	○ 契約時にご利用者が重度化した場合についての対応などの説明は行っていたが、同意書まではいただいていたので、同意書をいただくようにした。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、職員間の会話やミーティングなどで申し送り、ご利用者本位の運営を心がけている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話で近況などを報告している。又、定期的に「メルヘンだより」を発行したり、施設内に写真を掲示することで、日常生活が伺えるようにしている。金銭管理は出納帳に記入し確認印を頂いている。	○ 職員の異動などで新しい職員が入った場合に、運営推進会議などで紹介をするようにしているが、全員にいきわたらないことがあるので、スタッフの氏名・顔写真入りのボードを準備しわかり易くする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的相談窓口については、重要事項説明書に明記し、又、事業所において苦情の受付を説明している。苦情があった場合は原因の考察と今後の対応策を検討し対応している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・職員会議や個別面接などで意見を聞くようにしている。又、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ良い提案は実行している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の状態やペースに合わせた支援が出来るようにローテーションを組んでいる。又、その都度必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にとどめるようにし、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入る場合は、ご利用者にきちんと紹介し、以前からいる職員がフォローしながら関係作りを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ全体、あるいは事業所別の研修会、又、習熟度階層別に応じた職場外研修会に参加し、職員の資質向上に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内社会福祉法人の情報交換会を定期的で開催しており、他施設の見学や、課題別の取り組みなどの情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	○ 県内社会福祉法人のグループホームの県内ブロック別で、一般職員を対象にした職員の施設間交換研修の取り組みがある。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	グループ全体、あるいは部門・部署毎に各種慰労会を設け、職員間の親睦を深めている。又、日常や面接時に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。	○ 職員全体研修にもストレスケアについての研修を計画し実施している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に向けての勉強会や研修会への参加など支援を行っている。又、向上心を持って働けるように、人事考課の取り組みがある。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた場合や、施設見学時など、担当ケアマネジャーと、ご本人・ご家族に面談し、様々な問題に対応できるように努め、納得された上で安心して入居していただけるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学や面談時に現状や、サービス利用状況などを伺い、担当ケアマネジャーの情報も合わせ、ご家族が求めていることを理解し、介護相談や助言などをさせていただきようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に状況を判断し、助言や他のサービス紹介等を含めた対応をするように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前になるべくご本人・ご家族に施設見学をしていただき、ホームの雰囲気や日常の様子を把握して、納得していただいた上で入居していただくようにしている。入居後も慣れるまではご家族に頻回に面会にきていただくようにし、安心感を持ってもらえるようにしている。	○	グループホームの前に、認知症対応型のデイサービスを開設したので、デイサービスを利用しながらグループホームとの交流が図れるように取り組んでいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の行事や習わし、料理の方法を教えて頂き一緒に作ることや、特技や趣味が発揮できる場面がつけられるような工夫や、声かけを心がけるように配慮している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡などで、ご利用者の様子を伝え、状態を把握していただくようにしている。ご本人・ご家族の思いを受け止められるよう、質問や相談にも気軽に応じるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や電話連絡、広報誌で日頃の様子を伝え、又、施設行事に、ご家族に参加していただき一緒に過ごしやすい環境作りに配慮しつつ、ご本人とご家族のパイプ役となれるように心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に添って、ふる里訪問などを実施し、住み慣れた場所や知人との関係が継続できるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聴いたり、みんなで楽しく過ごす時間や、気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなどを配慮して支える。又、その時の体調や気分、感情で変化があるため見守りながら支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所に移られた方にも、ご利用者と一緒に面会に行くなど、継続的な付き合いが出来るよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者とのコミュニケーションが図れるよう常に意識し、その時の言葉や表情などから、個々の思いを汲み取り確認するように努め、本人の希望に添ってショッピングやふるさと訪問などの支援を行なっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族、担当ケアマネージャーより、情報を収集している。又、入居後も折に触れ、ご本人やご家族に聴き把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者個々の生活リズムを理解すると共に、特技や趣味を発揮できる場面などを提供し、その時の状態に合わせた声かけ・見守り・介助を心がけている。又、食事を一緒にすることで、より状態の変化が見え易く、個々の状態を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃からの関わりの中で、思いや意見を聴き反映させるようにしている。職員全員でカンファレンスに参加し、ケアプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(6ヶ月毎)な見直しを行うようにしているが、状態が変化した場合や、ご本人・ご家族の要望があった場合は、随時見直しを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	○	空床型のショートステイを受け入れる体制がある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	市の福祉モデル事業として認知症地域資源マップ作成作業部会があり、市内の地域包括支援センター職員と一緒に参加し協力をしている。
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	年に2回精神科医へ受診し、対応方法の指示に従っている。又、必要時応じて相談をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期的な受診でご利用者の状況を把握している看護師に、健康状態に問題が生じた場合相談に乗ってもらっている。	○	今後必要に応じて訪問看護ステーションとも連携していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は面会時や、ご家族との連絡、医療機関との情報により、状態の把握に努めている。又、退院後の経過がADL的にグループホームでの対応が困難な場合、ご家族や連携施設との話し合いにより受け入れ先の確保を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	体調不良や入院をきっかけに重度化が予測される場合、できるだけ早い段階でかかりつけ医と連携を図り、ご本人及びご家族と話し合い方針を決定している。	○	入所時や状態が変化した場合に説明・相談を行っていたが、書面での確認をしてなかったため、重度化についての同意書をもろうようにした。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合、事業所で対応でき得るケアをご家族に説明し、対応困難な場合は、受け入れ先の病院や施設について相談を行うようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、これまでの支援内容や、注意が必要な点についてなど、情報を提供している。又、馴染みの職員とご利用者が一緒に面会するなど心がけて行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者個々に合わせ、さりげない言葉かけや対応を心がけ、職員がお互いに注意し合い、傷つけたりプライバシーを損ねたりしないように配慮している。 プライバシー保護についての勉強会を行い、理解が深められるように取り組んでいる。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	行事の参加から食事内容や買い物など、日常生活全般において、ご利用者個々の意思表示を大切にしたケアを心がけている。意思表示が困難な方については、うなずきによる返答や、表情を読みとるようにし、本人の意思が尊重できるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、体調や、その日その時の本人の気持ちを尊重し、食事時間や入浴日の変更、個別の散歩など、ご利用者の希望に添って柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時など着ていく洋服を一緒に選んだり、お化粧品などおしゃれを楽しめるよう支援している。又、本人の希望を聴き、出張美容を依頼したり、昔からの行きつけの美容院へ、同行介助も対応できる体制が整っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の希望を取り入れながら献立を作り、調理、盛りつけ、片付けなどをご利用者と一緒に行い、職員とご利用者が同じテーブルで、和やかに食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。	○ 季節毎に行事食や、お誕生日にはご本人の希望に添った食事・ケーキ・プレゼントを準備し、ご利用者・職員でお祝いし喜んでいただけるようにしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	梅酒やコーヒー・紅茶など、ご利用者より希望のあるものを準備したり、一緒にショッピングに出かけ、好きな物を購入するなどの支援を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>入浴を拒否するご利用者には、時間をおいて声かけしてみることや、対応職員を代えて対応することで入浴につなげるよう工夫している。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>裁縫・生け花・書道など好きなことに参加していただき、館内に展示してご自分の作品を見て楽しんでいただくようにしており、今後も継続していきたい。</p>
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	○	<p>気候の良い時期に中庭での昼食や、おやつなどを実施している。今後も継続していきたい。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	<p>ご家族参加の入所者旅行を今後も継続し、ご利用者がご家族とゆっくり過ごせる機会が持てるよう支援していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望のある場合、又、プレゼントが届いた場合などは職員が声かけを行い、家族への電話の介助や、個々の能力に応じて職員が内容の確認や、用件などの伝達を行っている。	○	年賀状や絵手紙を出せるように取り組み支援を行なっている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関を開放し、入りやすい雰囲気作りに努めている。又、面会時間外でもご家族の都合に合わせて柔軟な対応を行っている。他のご利用者に気兼ねなく、和室などのスペースを利用して、ゆっくりくつろいで過ごしてもらえるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアの意識を持った上で、サロン担当者を配置し、ご利用者の見守りを行い、危険回避に努めている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に通じる扉は施錠をせずセンサーや鈴を設置し、ご利用者の動向を把握し、落ち着かない場合や外出を希望するときは散歩などに職員が付き添っている。又、散歩途中の挨拶や会話で近隣地区住民と顔見知りになり、協力も得られている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はサロン担当者を配置し、ご利用者の行動や所在を把握できるよう見守りを行い、プライバシーに配慮したさりげない声かけを心がけている。夜間は居室のセンサーや、物音に注意を払い対応することで安全確保に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	菓は厨房の戸棚で保管管理し、物品については鍵付き倉庫に保管している。日常使用する消毒液などについては、容器の口元部分にテープを巻き開きにくいように工夫し、包丁・ハサミなどは職員見守りの中で扱っている。針は使用後に数を確認するなどの支援を行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策委員会において、課題別の検討を職員全員参加で行い、事故防止に取り組んでいる。又、事故が発生した場合は状況報告書を作成し事態の把握と原因の考察を行い、対策を検討し再発防止や、気づきノートを活用し事故を未然に防ぐように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡網・マニュアルを把握しており、救急法の研修会への参加や、勉強会を実施し体得・習得するようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生時は緊急連絡網に地域の方にも協力を得て、消防署立ち会いで避難訓練にも一緒に参加していただいている。又、運営推進会議でも呼びかけ、地域の方々の協力が得られている。 災害時の対応マニュアルがある。	○	今後も消防署の協力を得て定期的な消防訓練を実施すると共に、災害時についても地域住民の協力体制を築いていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	安全を優先するあまり、玄関の施錠を希望されるご家族がおられるが、自由な暮らしの大切さと事業所の取り組みを丁寧に説明し、理解を得られるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間の申し送りや、毎日のバイタルチェック・本人からの訴え・顔色や食欲などで健康状態を確認し、必要な場合は主治医へ連絡し指示を受け対応することで、状態の悪化を防いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服マニュアルに沿って確実に与薬し、服薬チェック表に記入している。内服の変更があった場合は、ミーティング時に報告し周知している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や食物繊維を摂れるような工夫や、朝食後のトイレ誘導、散歩などを働きかけを行い、自然排便ができるように心がけている。排便チェックし、3日間排便が無い場合は下剤服用してもらい排便コントロールを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きやうがいの声かけを行い、必要に応じて介助を行っている。週1回は義歯洗浄剤で消毒を行い、口腔内の清潔が保てるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録すると共に、摂取量が少ない場合は職員間で申し送り把握している。嫌いな物の場合は内容を変更して提供したり、食事摂取場所や時間をずらして提供することで摂取量の確保に努めている。献立を管理栄養士にチェックしてもらい、専門的アドバイスをもらっている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>帰園時の手洗いうがいを徹底している。感染症防止対策委員会を設置し、検討内容については各自に報告をしている。感染症については、マニュアルを備え内部研修を行っている。</p>	<p>○</p> <p>インフルエンザやノロウイルスなどの感染予防のため、訪問者にも玄関に注意を呼びかける貼り紙をし、手指消毒液を玄関に準備し、手洗いうがいをしていただくよう働きかけしている。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>毎日、包丁・まな板・布巾などは漂白や熱湯消毒を行い、週1回冷蔵庫内の食材チェック・掃除を実施し、チェック表に実施記録を残すようにしている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関先に季節毎の花を植え、自由に出入りが出来るように玄関は常にオープンにして、明るい雰囲気になるように花を生けたり、威圧感を感じさせない雰囲気作りを行っている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関には下駄箱、ホールや和室にはソファなどを置き、館内に有線放送の音楽を流したり、手作りの貼り絵などを飾り、くつろげる雰囲気づくりをしている。又、レースのカーテンやよしずを使用し、柔らかな日射しの調整を心がけている。冬場にはホールにこたつを置き、温もりを感じてもらえるようにしている</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>随所にソファやイスを置き、又、和室など好みの場所で過ごせるようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや鏡台など馴染みの私物や、家族の写真などを居室に置き、やすらぎの場所を心がけている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	オゾン機を使用すると共に、窓の開閉で換気を行っている。又、巡回時や訪室時に、冷暖房の温度・室温チェックを行い、個々の体感温度に合わせた調整を行っている。	○	冬場には加湿器を使用し、感冒予防にもつなげている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手摺りの設置や段差の解消を行っており、安全や自立に配慮している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が分かり易いように貼り紙をしたり、居室に目印を付けたり、火と勘違いするご利用者の居室の明かりを遮断し安眠につなげるなどの工夫をしている。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭での食事やおやつなどを楽しんでいただいたり、玄関先や中庭でプランターを使って、野菜作りや花植え、草むしりなど職員と一緒にしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者が生き生きと日常生活を送ることができるよう、個々の趣味や特技などが発揮できる場所や機会を提供することで、何事にも意欲を持っていただけるよう自立支援に向けて取り組んでいる。

玄関に鍵をかけないケアを心がけ、過去の失敗を活かしご利用者の動向が把握できるようにサロン担当者を配置し、リスクマネジメントを常に意識した取り組みを行っている。

毎日の食事はご利用者の希望を取り入れて献立表を作成し、管理栄養士にチェックしてもらい、ご利用者と一緒に食事を作りできたてを提供し、職員と一緒に食べるようにしている。

地域やご家族との交流を大切にしており、地域住民の協力を得て消防訓練や認知症についての勉強会を実施している。また、家で採れた野菜や果物などの差し入れがある。理事長は医師で同敷地内に理事長宅があり、夜間や緊急時など直ぐに対応することが出来る。

グループに多種のサービス事業所があり、体調の変化や身体機能の変化に合わせ、ご利用者やご家族の希望に添ってサービスの提供が行える。